

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

# アカザカズラ

ツルムラサキ科 *Anredera cordifolia*

原産地：南アメリカ

## 特徴

つる性の多年生草本。オカワカメの名前でも知られる。観賞用のほか、食用にされることもある。

葉：多肉質でやや先のとがった卵形。

花：葉の根元から、長さ 15cm ほどの花穂を出し、直径 5mm ほどの緑白色の花を密につける。

繁殖：地中や地上に塊茎をつけるほか、茎の断片から生育するなど主に栄養繁殖によって増えている。地上部にできる塊茎は、つるが切った後でも数年間は発芽能力を持つとされている。種子をつけるのは非常にまれとされている。



影響：多肉質の葉で樹冠や地表を覆ってしまうことから、周囲の植物に日光が届かず、成長や発芽が妨げられるなどの影響がある。またつるが絡んだ樹木が本種の重さで折れてしまうことも報告されている。

侵入状況：奄美大島内では、まばらに数カ所で侵入が確認されている。観賞用や食用に栽培している人もいる可能性があることから、新たな逸出が生じないよう普及啓発等による情報の収集も求められる。

対策状況：未だ具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ：駆除の時期はあまり問わない。地上部のつるについている塊茎が、ぼろぼろ落ちやすいため、これらを優先的に除去する必要がある。その後、つるの根元をたどるように丁寧な抜き取り作業を行う。